

2020年(令和2年)

5月26日

火曜日

新商品に長野大生のアイデア

松本の信栄食品社長とオンライン懇談



長野大でオンラインで懇談する森教授(手前右)と長野大生、信栄食品の関係者ら

長野大(上田市下之郷)企業情報学部(学生45人)と信栄食品(松本市)の神倉藤男社長らが25日、オンラインで懇談した。同社が「商品開発に学生の知恵を借りたい」と県テクノ財団(長野市)を介して同学部の森俊也教授に打診。学生たちは森教授のゼミ生で、6グループごとに新商品のアイデアをまとめ、6月15日に同社に提案する。

同社は冷凍ギョーザの専門メーカーで約300種類を製造。当初は4月ごろから大学と会社を互いに行き来しながら商品開発を進める予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、オンラインでのやりとりとなり、学生は自宅などから参加した。

懇談で、同社が事業の概要などを説明。学生は「自社のこだわりは」「初めて購入した客のリピート率を上げる工夫は」などと質問し、神倉社長らが答えた。神倉社長は懇談後、「核心を突く質問が多くあつて驚いた。学生ならではの案に期待したい」と話した。森教授は「学生たちに問題解決能力を高めてほしい」と期待した。